

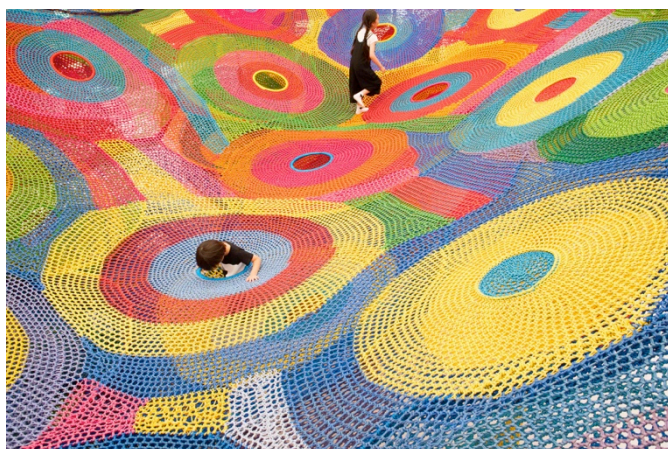
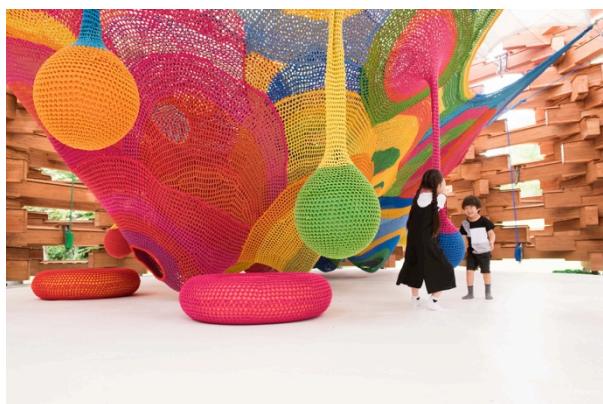
子供たちに大人気！ 「ネットの森」が7月20日(木)再登場！



子供たちに大人気の「ネットの森」が、彫刻の森美術館の夏休みに新しくなって帰ってきました。大断面集成材を積み上げた木造ドームの中に、カラフルな手編みのネットがいくつもつなが合わされた巨大なハンモックの造形が組みこまれた「ネットの森」は、造形作家・堀内紀子と建築家・手塚貴晴＋手塚由比によるコラボレーションから生まれました。「ネットの森」ならではの色鮮やかなネット作品と木組みの造形美は見逃せません。

今年の夏は、箱根の森と調和した体験型アート作品でお楽しみください。





「ネットの森」ご利用についてのお願い

- ・ ネットの中に入れるのは小学生以下です。
 - ・ 美術館開館時間内に無料でご利用いただけます。
 - ・ ネットの森の利用方法については、今後変更される場合があります。
- 彫刻の森美術館HPで随時更新して参りますのでご確認ください。



1981年、長野県にある姉妹館・美ヶ原高原美術館に最初のアート作品《おくりもの：未知のポケット》を展示。その後、1986年に箱根に移設され「ネットのお城」として親しまれました。
2009年、造形作家・堀内紀子と建築家・手塚貴晴+手塚由比によるコラボレーションにより「ネットの森」としてオープン。その後改良が加えられ、2017年7月20日に再登場しました。

施設名：「ネットの森」

ネット作品《おくりもの：未知のポケット2》

英語名：Knitted Wonder Space 2

制作年：2009年

素材：手染めナイロン組紐；手鉤編

サイズ：H600×W1500×D2000 (cm)

協力：インタープレイ・デザイン・アンド・マニファクチュアリング
チャールズ・マッカーダム

設計：株式会社手塚建築事務所
手塚貴晴、手塚由比

構造計算：今川憲英



堀内紀子

Profile

堀内紀子（造形作家）

東京都生まれ。1964年に多摩美術大学テキスタイル科卒業後渡米。クランブルック・アカデミー・オブ・アート（ミシガン州）で染色を学ぶ。1968年、ニューヨーク近代美術館で開催されたウォール・ハングング展に出品。1977年の「第3回彫刻の森美術館大賞展」に《樹林の内包する空気》を出品。「布の特色が最大限に生かされる創造物とは、単に造形や色が目を喜ばせるのではなく、身体全体を素材にゆだねることによって楽しむことができる作品」として、数々のプレイ・スカルプチャーを制作。現在、カナダ在住。

「薄くて丈夫。伸び縮みするネットを子どもたちは全身を使ってよじ登ったり、トランポリンのように飛び跳ねたり、でんぐり返しや、滑り降りたりして遊ぶ。美しい造形は彼らの想像の世界を刺激する。子どもたちの遊びが作り出すネットの揺れは、パイプレーションとなり、ネットを構成している紐を伝わって他の子どもたちに伝達される。遊びは相乗効果を生み出し、大きな共鳴となる。健康な子供が生み出す揺れは、障害を持った子供にも伝わり、一緒に遊ぶ喜びが生まれる。伸び縮みするネットで揺れる体験は、リズムとなり、脳に入った時に、人間の五感の大本である『体性知覚』を刺激するので、健康な子どものみならず、障害を持った子どもでも飽きのこない遊びを展開させる」

（「月刊 染織α」2002年4月号より）

Profile

手塚貴晴+手塚由比（建築家）

1966年東京都生まれ。武蔵工業大学卒業。ペンシルバニア大学大学院修了。1994年、手塚由比と手塚建築研究所を共同設立。代表作は屋根の上で生活が展開する「屋根の家」や深さ5メートルの雪の下に埋もれる自然科学「森の学校キョロロ」。東京立川市の「ふじようちえん」では、一周200メートルの楕円型の屋根上空間を設計。「手塚貴晴+手塚由比建築カタログ」に全38作品が収録されている。グッドデザイン金賞、日本建築学会賞他多数受賞。

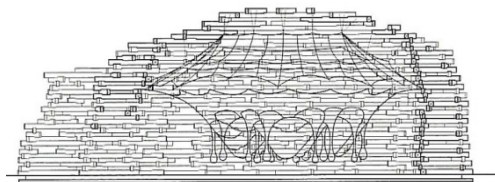


手塚貴晴+手塚由比

箱根彫刻の森のための新しいパヴィリオン。

ボリュームにして350m³、本数にして500本を超える木を積み重ねて作る。金属は全く使わない。木特有の不確定要素を克服するため最先端の構造解析が駆使されている。伝統的な木組みを駆使しつつ未来の形態を模索する全く新しいタイプの建築をなすはずである。

（「手塚貴晴+手塚由比 建築カタログ2」より）



SECTION 1/300